

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 ノートづくりで一人でもALできる会

テーマ 児童・生徒の脳内をアクティブにするノートづくり

取組のポイント・成果

取組の内容とポイント

新学習指導要領において、主体的で深い学びが必要とされ、アクティブラーニング型授業の研究・実践が進んでいた。しかし一転、新型コロナウイルス感染症予防のために、ペアワークやグループ学習が行えない事態になってしまった。そのような状況下において、学習内容を別の方法～ノートづくり～でアウトプットすることで、学んだことを自分のものとし、学力の定着を図りたいと考えた。

今回、私立高校の教員であり、認定方眼ノートトレーナーの資格をもつ先生を招き、少人数の教員で学ぶことでより実践的な勉強会となるよう工夫した。

日時/場所	内容
6月28日(日) 9:00～12:00 ライフポート柳津にて	方眼ノート1day講座① ・メモとノートの違い ・「考える」の共通認識をもつ ・フレームをつくることで考える道筋をつくる
7月19日(日) 9:00～12:00 ライフポート柳津にて	方眼ノート1day講座② ・フレームをつくる ・マッキンゼーの「空・雨・傘」 ・フレームを意識して話す
8月8日(土) 13:30～16:30 ライフポート柳津にて	方眼ノート応用編① ・16分割でToDoリスト ・問題解決に使う方法 ・インプット力・アウトプット力を加速させる方法
9月13日(日) 9:00～12:00 ライフポート柳津にて	方眼ノート応用編② ・授業ノートづくりの実践（生物・英語） ・書いたノートを共有する ・まとめの5分で頭を整理する必要性
10月17日(土) 15:00～18:00 ライフポート柳津にて	方眼ノート応用編③ ・考査の振り返りに使う ・個人懇談で生かす ・教育相談での利用
11月～12月 各学校にて	・校内で実践交流

成果

1 コマの授業を、A4 サイズのノート見開き2ページにまとめていくこの方法は、東京都の麹町中学校で行われているものであり、大きく変化していく社会の中で、指示待ちではなく自ら考えて動く生徒を育てるためのものだという。

1 見出しスペース <ul style="list-style-type: none">• 本時の課題を書く• 本時の結論を書く	5 要約スペース <ul style="list-style-type: none">• ポイントを3つ書く	
2 事実スペース <ul style="list-style-type: none">• 板書する• プリントを貼る• 説明を書く	3 解釈スペース <ul style="list-style-type: none">• 気づいたこと• 疑問点• メモ	4 まとめスペース <ul style="list-style-type: none">• 問題演習• 復習• 疑問の解決

初めに基本のノートづくりを学び、後半はそれを生かしてそれぞれの校種やそれぞれの場面で、どう実践していくかという流れで研修してきた。

基本のフレームが左である。数字は書く順序を示している。

□で本時のテーマとゴールを明白にし、▣にプリントを貼ったり、説明を記入したりする。▣には説明を聞いて気づいたことや疑問に思ったことを書き、時間があれば▣にまとめをする。問題

演習や復習のスペースとしてもここを使う。そして▣に本時のポイントを単語か短文で3つ書く。後から見返したときには、□と▣を見れば内容が最短でわかるようになっている。

黒板の丸写しではないため、生徒は常に頭を使いノートを書く。自分なりにまとめたり自分の言葉で書いたりすることは、最初は時間がかかるが、その分、記憶にも残り使える知識として定着すると思われる。また、中学・高校だけでなく、小学生でも平易な言葉で説明すれば十分使えるとのことであった。むしろ、小学生からこのフレームワークに親しんでおくほうが、考える力を養えるのではないかと感じた。

受講者の感想

- 最初は半信半疑だったが、フレームをつくり、自分で書いていくうちに「使える」ことに気付いた。
- 何も考えずに板書しても何も頭に残らないが、考えながらフレームを使ってノートづくりをしていくと本当に頭を使うし、整理できていくと感じた。
- 最後まで書くと達成感があり、またやりたい気持ちになった。生徒にも勧めたい。



今後の課題

ノートづくりをひととおり学んだが、自分のものになったとはまだ言えない。何度も書いてみて、よりうまく使えるようになりたい。また、多方面に応用できることも知ったので、個人懇談や教育相談などの学校現場で使っていきたい。

校内研修で多くの教員に広め、ノートづくりで生徒が自分との対話を行いアクティブラーニングできることを伝えたい。